

平成 25 年度 生駒市行政改革推進委員会

第 3 回 会 議 録

開催日時 平成 25 年 6 月 10 日（月） 午前 10 時～正午

開催場所 生駒市役所 4 階 403・404 会議室

出席者

（委 員） 森委員長、松山副委員長、幸元委員、岡本委員、奥田委員、楠委員、松本委員

（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、岡田企画政策課課長補佐、牧井企画政策課主事、石村企画政策課係員

（傍聴者） 2 名

欠席者 藤堂委員

議事内容

1 開会

2 案件

(1)前期行動計画の取組状況の確認について

【資料 2 「行政改革大綱 前期行動計画」取組状況の確認方法について（案）、資料 3 H24 年度 前期行動計画取組状況評価結果 報告書 イメージ の説明】

（森 委 員 長） 報告書の取りまとめは次回の作業になると思うので、本日は報告書のイメージを念頭におきながら、個別の取組状況を確認してもらいたいと思う。

（岡 本 委 員） 資料 2 の(2)評価基準について 2 点意見がある。1 点目は、最終的には他の要因も含めて総合的に判断するという評価基準が分かりにくいということ。数値目標の達成率が 100%超かつ「部の仕事目標」の評価で A 評価が 50%以上・B 評価が 50%未満の場合に、総合評価が A になるのかと思ったが、そうはなっていない。総合評価をつける際に、この評価基準以外の要因も含めて判断しているのだろうと想像できるのだが、分かりにくい。例えば、数値目標の達成率が 100%超かつ「部の仕事目標」の評価で A が 50%以上の場合のみ、総合評価を A とし、数値目標の達成率と「部の仕事目標」の評価が異なる場合は低い方を採用するなど、もう少し具体的な評価基準を作成してほしい。2 点目は、数値目標の達成率の区分と総合評価のコメントが乖離している気がする。達成率が 50～80%で一定の成果が得られ

たと言えるのか。

(森 委 員 長) 総合評価はこの基準に基づいて判断しているということで良いのか。

(事 務 局) 総合評価はどちらかというと、数値目標を中心に評価している。数値目標の達成率と取組状況の評価の両方を見て、総合評価が適切かどうかを判断してもらいたい。2点目の数値目標の達成率については、修正しても良いと考えている。

(岡 本 委 員) 数値目標の達成率に重点を置いているということだが、それであれば“新たな情報提供方法の検討・導入”の数値目標の達成率は98%以上なのでBになるはずである。しかし、総合評価がCになっているということは、それ以外の総合的な判断が含まれているのだと思うのだが、この表からは全く見えてこない。

(事 務 局) 基本的には数値目標の達成率から総合評価を出しているのだが、確かにこの取組内容については、数値目標の達成率からみても「部の仕事目標」の評価からみてもBである。

(楠 委 員) 評価基準から出される評価と比較して、総合評価を厳しくつけているところと甘くつけているところがある。評価基準から出される評価と異なる総合評価になっている場合は、その理由を明らかにすべきである。評価基準に基づいて総合評価をしているのなら、「部の仕事目標」の評価の中にCが1つでもあれば、総合評価はAにはならないはずなのに、Aになっているものがいくつかある。評価基準を定めたのであれば、きちんと整合性がとれる評価をすべきである。

(松 本 委 員) 行政が目標とするものと市民満足度調査の項目に整合性があるのか疑問である。例えば、1つ目の取組項目について広報紙コンクールで優秀賞を受賞したことなどを理由としてBと自己評価しているが、市民が賞をとっても意味はないと感じていれば、満足度の点数が低くなり、総合評価は低くなってしまう。

(事 務 局) 目標として市民満足度を掲げているものが多いのだが、満足度調査は、5段階評価のアンケートによるため、なかなか評価点に優劣がつきにくく50点前後になってしまう。本日、各委員から指摘があったように、評価基準の中の、数値目標の達成率については再度見直し、数値目標の評価と「部の仕事目標」の評価を点数化してみる。それに基づき、再度総合評価をつけ直し、その後各委員に見直すところは見直してもらおう。また、数値目標の達成率と「部の仕事目標」の評価を1:1で考えるのか、もしくはどちらかにウエイトを置いて評価するのか等についても意見をいただければと思う。

- (森 委 員 長) 各取組状況の中で、抽象的な目標を掲げているものではなく、具体的な数値目標を掲げているものに重点をおいて、総合評価しているのか。
- (事 務 局) そうではなくて、取組項目ごとに定めている目標に対する達成状況をみて総合評価をしている。各取組項目中の個々の取組状況の中で掲げている数値目標に対する達成状況についてはあまり重視していない。
- (森 委 員 長) 総合評価をする目的は、実施内容の評価をすることだと思う。その評価をする上で、数値目標を掲げているものが重要だという訳ではない。実施内容を検討する上で、数値目標にはそれほど大きな意味がないのに、数値目標の達成率を中心に総合評価するのはおかしいので、総合的に考えて評価を決めているのではないかという印象を持ったのだが。
- (事 務 局) 取組項目において、数値目標がないものについては、その中の個々の取組項目に示している「部の仕事目標」の評価で総合評価をしているが、数値目標の達成率と「部の仕事目標」の評価を1:1で考えるべきなのか、どちらかにウエイトを置くべきなのか判断に苦慮する所がある。
- (楠 委 員) 確かに数値は重要だと思うが、目標を見ていると、平成24年度の達成状況より平成25年度の目標が低い場合がある。こういう目標をみると、目標数値自体が正しいのかもあいまいである。目標数値で総合評価を判断するのであれば、目標数値もきちんとしたものであるべきだが、そうはなっていない。基本の軸がぶれないようにしなければならない。
- (森 委 員 長) 事務局としては、評価基準を基に評価してほしいという認識で良いのか。
- (事 務 局) 評価基準を基に、取組状況に対する評価と数値目標に対する評価をもって、総合評価を決めるという方法にしたいと考えている。
- (松山副委員長) 楠委員の意見に賛成である。本来であれば、1年単位の目標と2～3年の中期の目標とに分けるべきだと思う。また、掲げている目標が高いのか低いのか。どういった基準で目標を決めているのか聞きたい。
- (事 務 局) 例えば、情報公開の満足度の目標については、平成22年度の市民満足度調査で49点だったので、それに基づいて目標を立てている。
- (松 本 委 員) 数値目標に達していない部分に力を入れて取り組んでいかなければならないが、数値目標と取組内容が連動していなければ、いくら

頑張っても取り組んでも数値目標を達成することができないと思う。

(事務局) 所管課には、「部の仕事目標」において、目標未達成の場合は、達成できなかった理由を書いてもらっているのですが、どうすれば達成できるのか等はもちろん考えている。

(奥田委員) 目標を低くすれば達成しやすくなる。目標として掲げた数値が適正なのか。目標どおり達成した場合は、総合評価は B になるという認識で良いのか。

(事務局) 岡本委員が指摘したとおり、100%を上回る達成率となった場合に A としている。数値目標は、行政改革大綱と前期行動計画を策定した際に決定したが、これまで評価をしたことはなかった。数値目標が正しいのか、現実に合っていないのか等は進行管理をして初めて分かるので、数値目標に関する意見については今回作成する報告書の中に記入し、後期行動計画に反映していきたい。

(森委員長) 総合評価の評価基準について、この基準に基づいて評価を変更するのは構わないが、評価基準自体はこのままでいきたいと思っている。評価の基準が甘い等の意見は、委員会全体の意見として報告書に入れて、次回の後期行動計画を策定するときに反映すれば良い。また、設定された目標が甘いといった意見や評価が低い原因が追究されていないといった意見等については、報告書のコメント欄に記入してはどうか。

(楠委員) 後期行動計画において目標を設定するときに、委員会から出た意見を反映してもらいたい。

(事務局) 報告書にまとめて、それに沿って後期行動計画は策定する。

(松山委員) 情報公開の満足度は 100 点満点なのか。100 点満点だとすれば、51 点は低くないか。

(事務局) 市民満足度調査は 5 段階で調査し点数化しているため、100 点となるためには回答したすべての人が「とても満足」と評価する必要がある。アンケートを実施すると「普通」と答える人が多く、なかなか点数が上がらない。

(幸元委員) 今年度はこの判断基準に基づいて総合評価するが、数値目標がないものについて、例えば委員会を設置することが目標にされている場合、設置したから B 評価となるのか。委員会を設置しただけでは、B という自己評価を信用して良いのかがわからない。

(岡本委員) 資料 3 の「H24 年度の主な取組」について、2 行目の“「ラブリータウン」、「いきいきまちだより」による市政情報の提供”は毎年度していること。毎年していることではなく、今年度新たに取り組ん

だことを書くべき。

(松山副委員長) 毎年取り組んでいることを書くのであれば別の項目を設けるべきである。また、“市議会のホームページのライブ中継と録画配信の実施”について、市議会（本会議）のライブ中継は以前から実施しているはず。“各委員会のライブ中継を始めた”の間違いではないか。

(事務局) 修正させていただく。資料 3 の内容はもう一度検討するので、今回はあくまでも報告書のイメージとしてとらえてもらいたい。今は取組項目の中の分類ごとに「新たな情報提供方法の検討・導入」で 1 枚にしているが、「どこでも講座の運用・充実」も一緒にして、「行政運営の状況の分かりやすい情報提供・効果的な情報共有」で評価する可能性もある。

(森委員長) しかしそれでは総合評価も変わってくるのではないか。

(事務局) 取組項目等の欄の、取組項目を単位として評価するのか、取組内容を単位として評価するのか。取組内容を単位として評価した場合、取組項目の評価に影響が出る可能性がある。

(楠委員) 毎年毎年新しい取組はしていないと思うので、改めて取り組んだものについて 2 つ、継続して取り組んでいるものについて 2 つ程度記入してはどうか。重要な仕事を放りだして新しい取組をすることが正しいとは思わない。環境マネジメント推進会議の中で、毎年良い取組を継続している施設の評価を A にするか B にするかでいつも議論になる。常に良い取組をしているのに、新しい取組をしていないから B にしてしまうというのはおかしいと思う。

(岡本委員) 継続の取組と新規の取組が分かるように書いてもらえば良い。

(森委員長) 岡本委員が言いたいのは、当たり前なことまで書く必要はないだろうということだと思う。問題は総合評価を取組項目ごとにするのかどうか。

(事務局) 例えば「どこでも講座の積極的な活用」等は内容が具体的なので、それに関連する実施内容が必然と少なくなる。取組項目ごとに総合評価をしても 24 項目ある。

(森委員長) 個別に評価すべきものについては、評価シートの中に記入するという方法もある。

(岡本委員) 数がそれほど減るわけではないので、取組項目ごとに評価することで良いと思う。

(事務局) もう一度総合評価を見直すのであれば、評価基準も併せて見直すのかどうかも考えてほしい。

(森委員長) もう一度事務局に総合評価を見直してもらおうのか。また、その際

に、評価基準も見直すべきか。2点目については、このままの基準で良いと思う。各部局個別の評価もこの評価基準に基づいて評価しているのではないのか。

(事務局) 各部局個別の取組状況に対する自己評価については、あまり数値目標の達成率は勘案していないと思う。単に取組に対する達成率が100%を超えていると判断した場合にAと評価しているのだと思う。

(森委員長) 個別の取組状況に対する自己評価でAとしているのは、数値目標に対する達成率以外の取組も含めて評価しているようである。評価基準を見直すと、取組状況に対する自己評価と比較して、総合評価が相当厳しくなると思う。

(楠委員) これは、目標に対してのロードマップがあつてその中から抜き出して記入しているのか、それとも単にこのシートを埋めているだけなのか。何か基となっているものはあるのか。

(事務局) 個々の取組項目ごとに、担当課が当てはまる取組内容を記入するという方法なので、かっちりしたロードマップのようなものはない。

(松本委員) 担当部署について、総務課は1個なのに対して、企画政策課は12個もある。

(事務局) 行政改革に関しては人事課、財政課等の管理部門が多くなってしまふ。

(楠委員) 評価の判断に迷った際に、その評価をした背景がわかれば、評価しやすいのではないかと思い質問した。

(岡本委員) 事務局で報告書案を作成してもらい、その中に事務局案の総合評価とコメントを記入してもらってはどうか。できた報告書を見て、違和感があるものについて委員会で議論すれば良い。

(事務局) 次回会議までに作成する。評価基準は見直した方が良いか。

(岡本委員) 手間がかからないのであれば変えてはどうか。他に影響が出るのであれば、次回からで良いと思う。

(森委員長) 所管課が不信感をもつのではないかと心配している。各担当課がA評価としているのに総合評価がCとなっていると、不信感が生じ、今後の評価や行政運営に悪影響を及ぼすのでは。

(事務局) 各所管課が自己評価をする際に、本日の評価基準に基づいて評価するようには指示していないので、問題ない。

(森委員長) 総合評価に関しては、評価基準に基づいて機械的に行い、コメントの欄に各委員の意見を記入してはどうか。評価基準を見直して事務局で報告書の原案をつくってもらい、次回の委員会で検討していく。

(事務局) それぞれの項目について、部の仕事目標と数値目標の評価区分の割合をそれぞれ記載する。評価が異なるときの総合評価については、空欄にしておく。

(2)その他

【資料4 平成25年度 検討対象補助金等一覧の説明】

(森委員長) 何か意見はあるか。

(各委員) 了承。

【決定事項】

- ・事務局で、取組項目ごとに報告書案を作成し、次回会議で検討する。